

SORA

web magazine 2019.sep. vol.118

MICRONESIA YAP

Travel

MAP
CLICK!

PHOTO & TEXT : YASUAKI KAGII

ヤップの新しい地図

久しぶりに訪れたヤップ島。以前は、日本人のオーナーガイドが居たダイブセンターでお世話になったけど、彼は島を去った。その後、ヤップ島はどうなっているのかな?と気になっていたところ、取材の話を頂いた。今回は、ヤップでもダイバーに有名なホテルの一つ、マンタレイベイホテルに滞在して、ヤップダイバーズで潜ってきた!

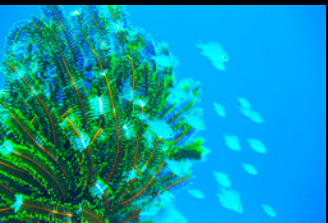
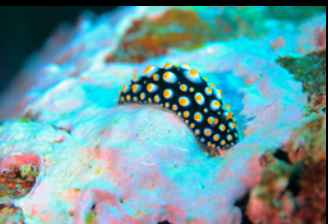


まずは、サメポイントだ！

棧橋からダイビングポートを約40分ほど走らせる。緑の深いマングローブを抜け、青い外洋を走っていく。ポイントらしき場所に到着すると、ブイの周辺をスピードを上げて何周も小さな円を描いた。まるでジェットコースターのような勢い。でも、その間に私は理解ができた。これは、サメをおびき寄せているのだと。3周ほど描いた後でブイを掴むと、どんどんとサメが集まってくるのが水面からも伺えた。ポイント名はバーディゴ。ブリーフィングで、「最初にサメを見ましょう！でも、餌付けはしないので、前半の15〜20分でサメはいなくなってしまう。その後は、リーフの上を楽しみましょう」ということだった。エントリーして、まずはサメとご対面。グレイリーフシャークとブラックチップシャーク。餌付けされていないので微妙な距離感だが、それでも青い海に映える彼らの姿は美しい。でもずっと待っていると、中には接近を許してくれる個体も。約20分ほど遊んだ後、潮の流れに乗って移動を開始。ノコギリダイの群れや、ガイドさんが教えてくれるウミウシなど小さな生き物を楽しんだ。潮の流れが変わったので、少しエントリーしたブイの周辺に戻ってくると、潮当たりが良いのかサメが必ずリーフ近くを泳ぐ場所があった。水深は15mほど。そこで待っていると、簡単に接近することができた。まだまだ知らない魅力ばかりのヤップの海だった。



MICRONESIA
YAP
Travel ミクロネシア・ヤップ

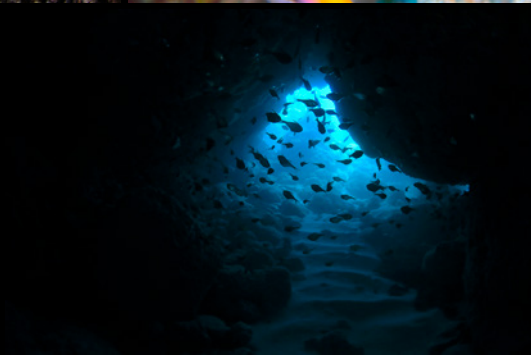




ヤップにこんな地形ポイントがあったの!!??

2本目は、ヤップ島の最南端まで移動。ポイントはヤップカバーンズ。ここは地形のポイントで、前半は地形を、後半はリーフの上のハナダイなどを楽しもう!というブリーフィングだった。エントリーしてリーフの亀裂を進んでいく。最初、太陽が差していなかったので、もったいな〜いと思いつつも、思いの外複雑な地形の中を行く。難しいのではなくて、連続する亀裂や穴などがかなり面白い、というのが正直な印象で、これまでヤップに2回来たことがあるが、このポイントは初めて。光が差していればどんな表情を見せてくれるのだろう……。結局、強烈な光はないまま地形パートを終了。その後、リーフに群れるハナダイなどを楽しむ。ガイドにハダカハオコゼを見せてもらったり、生物も面白い。コースを1周回ってプイに戻ってくると、太陽の光が差してきたので、ガイドさんに言って少しだけ前半の、ほんの少しの亀裂に連れて行ってもらい、光を撮影した。もっと撮影したかったな〜(苦笑)。

MICRONESIA
YAP
Travel ミクロネシア・ヤップ

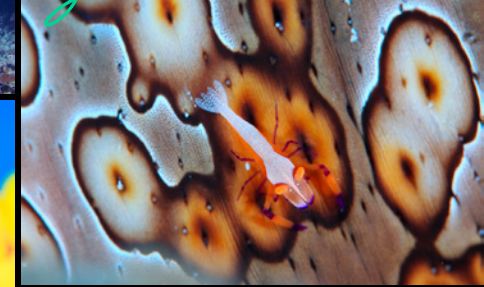


tsumi-shima
タイバーの夢をつみあげていく



MICRONESIA YAP

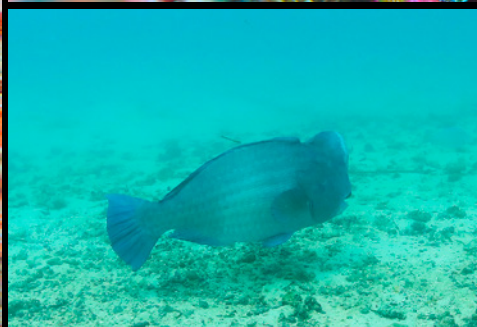
Travel ミクロネシア・ヤップ



手付かずのハナダイが彩る南のリーフ

3本目はそのお隣のポイント、ライオンフィッシュ・ウォールへ。ブリーフィングでは、「潮の流れがあるときは、ゆっくり進んでください。潮の流れに乗って行くと、すぐにポイントの最後に来て、30分で終わってしまいます。そして生き物はマクロがメインです!」という説明だった。あまり期待せずにエントリーしたが、さすが、いつも潮流が当たる場所で、海底には生命が生き生きとしていた。確かにフエダイやコンショウダイなどの小さな群れはいるが、どちらかというとマクロな生き物かな?という感じで、潮の流れも多少あり、ゲスト全員でゆっくりと進んでいく。驚いたのはリーフの色の豊かさ。黄色やオレンジ色のホヤやカイメンなどが付着していて、なんとも鮮やか。そのような鮮やかさを求めて、インドネシアやフィリピンに行くことが多いが、そことはまた違った絵を撮影することができた。そして、ハナダイの多さにも感動。フィッシュアイレンズという超広角レンズでこのように映るのだから、肉眼ではすごいことになる(笑)! 最後はカスマアジとギンガマアジの若魚の群れとフレンドリーなタイマイにも出会った。予想外に素晴らしいポイントだった。





MICRONESIA YAP

Travel ミクロネシア・ヤップ

マンタを 狙うぜ!!!!

2日目の1本目はマンタ狙いで、ゴヌフチャネルへ。夏（5月～10月）のマンタポイントで、水深15mほどの細いチャネルをダイビングして行く。海底は砂地で、2箇所、マンタのクリーニングステーションがある。エントリー前のブリーフィングで、「今、ちょうどシーズンの変わり目で、マンタがチャネル内、またはポイントをぐるぐると回って、居場所がまだ定まっていない……」とつぶやいていた。そうは言っても取材ということで、出してくれるでしょう!と期待してエントリー。最初のクリーニングステーションは、ロクセンヤッコのペアがやって来て、そこを撮影。そしてすぐに20mほど離れた大きなクリーニングステーションへ。水深約15mの海底や、少しリーフの駆け上がりでマンタを待つ。じっと待つ。50分経過……。現れず……。なるほど、そんなこともあるかと。で、一緒に潜って行くアメリカ人ゲストも、やっぱりマンタは見たいということで、2本目も同じポイントへ。今度は私はマクロのカメラも持ち込んで、マンタが出てくるまではマクロ撮影に集中。かなり手応えがあるマクロを撮影。「これは、これまでのヤップのイメージとは違うのが撮影できたと思い、マンタの登場を待っていたが、潮はどんどんと早くなるけど、マンタの姿は見えず……。なんと2本ともマンタを外してしまった!!!!



イルカ！ イルカ！ イルカ！

船上で、サンドウィッチとサラダのランチを終え、3本目のポイントへ向かう。途中にイルカの群れに遭遇。先ほどのマンタのお返しとばかりに、ボートの舳先で遊んでくれるイルカたち……。ありがとう、とても嬉しかったよ、そして美しかったよ……。 (笑)。



MICRONESIA
YAP
Travel ミクロネシア・ヤップ

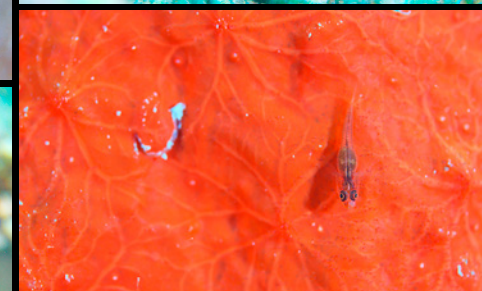


マクロポイントの実力はいかに？

3本目は、ホテル近くのマクロポイントへ。名前はスローアンドイージー。潮流のないポイントで、ゆっくり潜れば、いろんな生き物がたくさん見えますよ！というネーミングらしい。マンタを見ていたらどんなポイントでも良かったけど、正直、マクロポイントか……と少し意気消沈しながらエントリー……。でもだいたいこんな状況の時は、良いことがあるのですよね。ハゼをはじめ、じっくりといろんな生き物とにらめっこする。タイムも気にせずに、私の懷に飛び込んでくる。視界の中には常にマクロの生き物が。サンゴも豊かで、確かに、3本目にもってこいの浅い素敵なポイントだった。



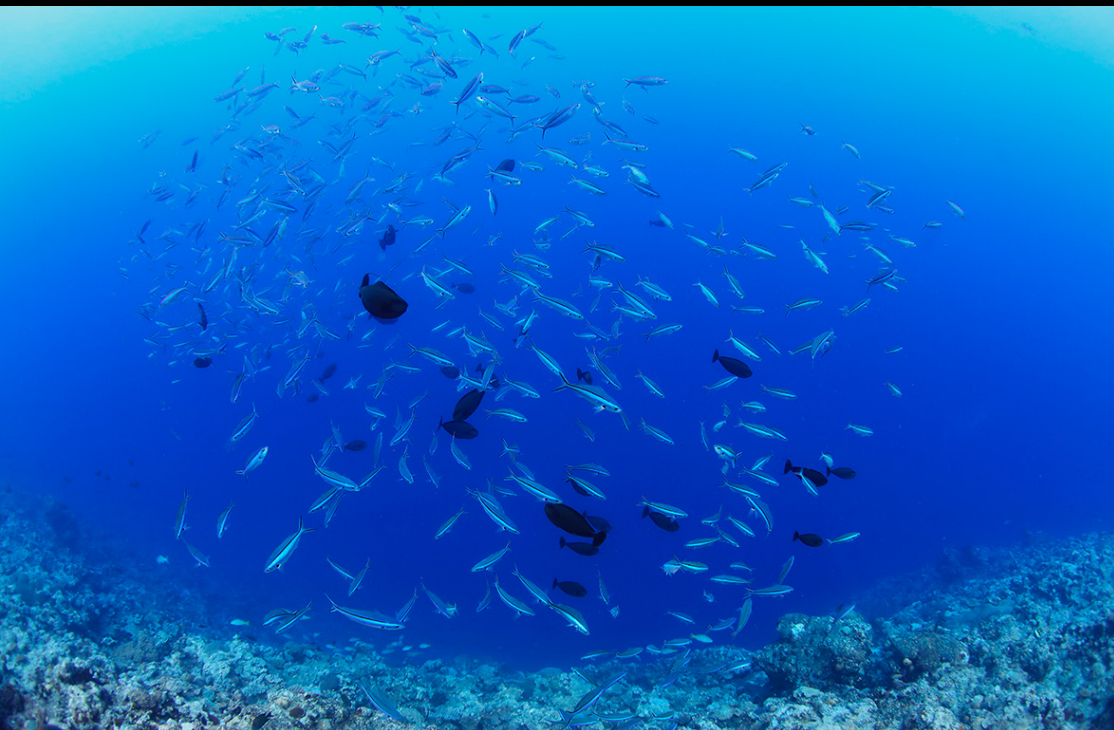
MICRONESIA
YAP
Travel - ミクロネシア・ヤップ





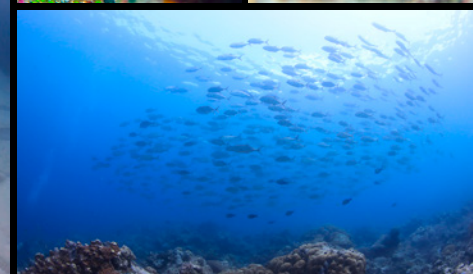
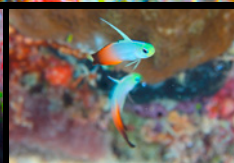
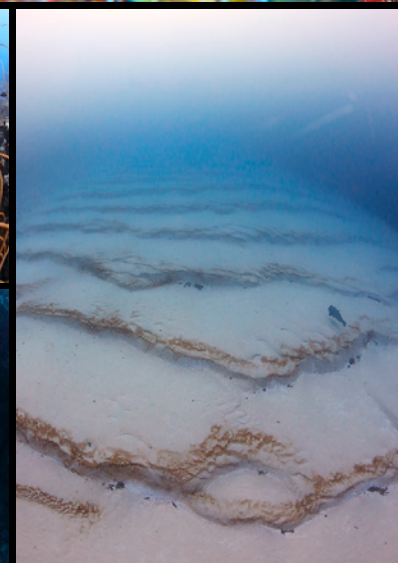
MICRONESIA YAP

Travel ミクロネシア・ヤップ



ヤップコーナー!!! 素晴らしい!!!

3日目。朝8時に集合して、再びマンタポイント。これまでゴヌフチャネルと書いてきたが、もう一つマンタバレイというポイント名がある。潮の流れは昨日とは逆で、外洋から流れ込む潮で透明度が高い。砂地に描かれた砂紋の上を泳ぐカンムリブダイを眺めながら、一路クリーニングステーションへ。1時間待ったけど、出現せず……。ゴヌフチャネルは、夏のポイントで、念のために冬のマンタポイントも見たいとお願いして、ミルチャネルの方に向かう。しかし、マンタの気配なし。2本目はその周辺で潜ることに。ポイント名はヤップコーナー。インサイドリーフからスタートして、まず驚いたのは、トサカリユグウミウシがわんさかという。よく見ると岩肌には、あの笑いボヤがたくさん群生している。なるほど、たくさんの食べ物があるからね。そんな嬉しい事実を知り、嬉々としつつ鮮やかな海底を撮影していく。途中、ドロップオフの地形が複雑に入り組んだ場所があったり、ヤギが群生している場所があったりと、環境の変化は面白い。やっぱり、なんとかコーナーと名前がつくところは面白いのかな……とってしまう。外洋に近づくと、リーフの上でギンガメアジの群れに遭遇。様々なブダイが集団捕食をし、接近は許してくれなかったが、3匹のマダラトビエイとカメが泳いでいた。そして、クマザサハナムロの群れが、私の目の前に集まってきてくれていた。ヤップコーナー……。ホヤからギンガメアジまで……。恐るべし……。 (笑)。





MICRONESIA YAP

Travel ミクロネシア・ヤップ



最後の最後に……

3本目は、また、ゴスフチャネルをリクエスト。どうしてもマンタを撮影して帰らなかった……というか、この目で、久しぶりにヤップのマンタと対面したかった。「潮の流れが速くて、透明度が随分悪いよ?」とガイドに言われたけど、「大丈夫、潮の流れが早い方がマンタが好きって、昨日言ってたよね!」などと笑いながら、会話しつつエントリー。まず、最初の小さなクリーニングステーションへ。遠くに、2匹のマダラトビエイが泳いでいるが、撮影できる距離まで行けなかった……。そして、大きなクリーニングステーションに向かうとガイドが大慌て!! そう、1匹のマンタが、潮の流れに向かいながら止まってクリーニングを受けていた……。最後の最後に……。海に感謝です……。クリーニングに夢中になっているマンタは、接近を許してくれた。近づくとは今度は、向こうから、少し興味を持っているような感じで接近してくれた。私の大きな勘違いかもしれないけど、少し海中で会話してたのかも……。約30分、そんな時間を楽しんでマンタは去っていった。その時にはっきり気づいたのが、お腹と背中が大きく膨れ上がっていた。きっと2月の交尾シーズンを終えて、妊娠してるマンタなのだろう……。素晴らしい出会いを最後に頂いた。

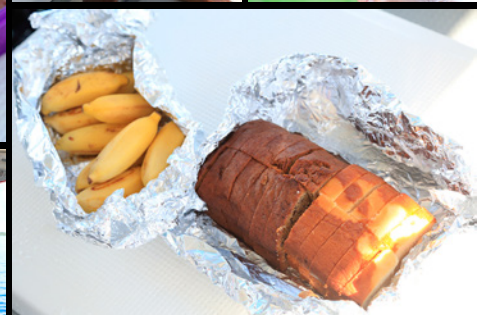
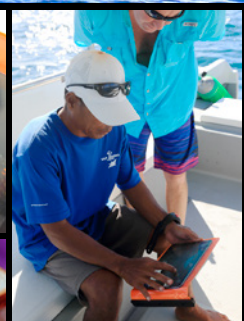
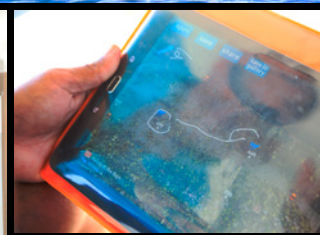
翌日リゾート内で、一緒に潜ったグアム在住のアメリカ人ダイバーが話しかけてきた。「昨日見たマンタは、Notches っていうんだって、知ってた?」「何それ?」「その壁に貼ってあるマンタの写真に、Notches があるよ」と一緒にダイビングセンターの脇に張り出している、これまでに確認されたマンタの写真を見た。「この胸の斑点の位置と尻尾近くの切れ目を覚えてるんだ」とのこと。きっとガイドさんともその話を済ませているのだろうと思う。素直に信じて、性別を見るとメスと書いてあったので、やっぱりこの子だ!と、勝手に嬉しい気持ちになっていた(笑)。



今回、お世話になったマンタレイベイホテル ホスピタリティが素晴らしい!

ユナイテッド航空で、夜中の2時ごろにヤップ島に到着。ホテルに着いたのが、3時前で、チェックインすることなく、部屋番号を告げられ、そのまま部屋に。荷物は後でボーターが持ってきてくれた。明日の午前中に、部屋に置いてあるチェックインフォームに記入して、パスポートと持ってきてほしい。それだけ告げられたので、夜の作業もなく、スムーズに眠りにつくことができた。その第一印象から始まり、このホテルはとてもスムーズで感じが良かった。ダイビングの最終日に GMIC に会い、少し話した。最初、「今日の最後のダイビングでやっとマンタに会えた!」と伝えると、「ヤップはマンタばかりじゃないんだよ。マンタばかりが有名になってるけど、他の魅力もありますよ」と言われた。確かに、今回他のポイントの魅力を再確認したので、その言葉が身に沁みた。そして、「このホテルのスタッフのホスピタリティも素晴らしい」と告げると、「そう! そこんだよ!」という感じで、嬉しそうにこのホテルのサービスに関する良さを教えてくれた。私は取材でやってきたので、特別? かどうか分からないが、とにかくスタッフが良い。特にレストランのスタッフは、「カギイ」とか「ヤスアキ」とか積極的に私の名前を覚えてくれて、呼んでくれる。レセプションの笑顔の対応も素敵。他のホテルとはまた違った、スタッフとの少し近い距離で数日間がとても心地よかった。そして、レストランが海賊船のようにになっている。勾配のある床で、海の雰囲気、良い空間での食事。トップデッキでは、夕日に染められたゲストが楽しそうに酒を飲んでいる。スタンダードやデラックスというカテゴリーはあるが、どの部屋も広くて使い勝手が良い。できれば、オーシャンビューがオススメ。朝日夕日を感じることができるので。



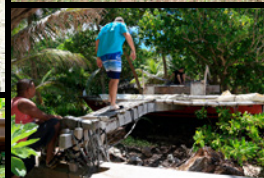


マンタレイベイホテルに併設されたヤップダイバーズ

ヤップでも老舗のダイビングセンター。残念ながら、日本語を話すスタッフはいないが、時折、気の利いた日本語で話しかけてくれる。海沿いのホテルの敷地内に広く整った施設を持つ。ダイビング用のボートを8隻所有し、ヤップの海を縦横無尽に紹介してくれる。到着初日は10時半集合で、3ダイブ。ランチを持って行き、ホテルに戻ってきたのが18時ごろだった（まだ明るい）。翌日から、8時または8時半に集合して、ランチ付きの3ダイブ。ホテルへの戻りは16時前くらいだった。ランチはサンドウィッチとサラダを前日に告げる。ポイントはそれぞれだが、およそ20分から50分ほどかけて向かう。マンタ以外の魅力もあるが、さすがにマンタの一番良いシーズンは、交尾時期の2月とのこと。その時期は、ホテルも随分と混むので早めのご予約を。

MICRONESIA YAP

Travel ミクロネシア・ヤップ



石貨だけではなかった、島内観光の魅力

帰りの日、ユナイテッド航空の場合、深夜3時ヤップ発になるので、1日十分な時間がある。ホテルでのんびりするのも良いし、オプションツアーに参加するのも良い。ホテルのオーナーが、「ダイビングばかりでは、ヤップを知ったことにならない。やはり陸の観光にも行ってもらいたい」と言っていた。彼の様子を見る限り、ビジネスではなく、心からそう思っているのだと思った。確かに、様々なオプションツアーが用意されている。2時間、半日、1日島内観光ツアー。そしてカヤックツアーなど。今回は、半日、約4時間の観光ツアーに参加してきた。10時にロビーに集合、お目々の可愛い現地ガイドのヒオさんが担当してくれた。まず2時間、じっくりと島の南側を行き、後半はのんびりと北側に向かった。ホテルを出発してすぐに現地のコミュニティハウスを車内から眺め、その後はヤップの島に残る第二次世界大戦の戦跡巡りとなった。日本軍の砲弾や零戦、日本が当時作った滑走路など。日本人として知るべき史実が、ここヤップにもたくさん残っていた。印象として、石のお金を見たりするだけと思っていたので、思いがけず、大変良い経験となった。その後、大きな石貨のバンクに向かい、女性禁止のメンズハウスなども見学した。そして後半は、北のMAAP島に向かい、現地の方に船の構造や様々なことを話してもらい、椰子の水を飲み、のんびりとヤップの自然を謳歌した。とても素晴らしい時間だった。最初は、観光なんて思っていたが、歴史的にも伝統文化的にも素晴らしいツアーだった。

